

NEWS LETTER Vol.7

- ・診療放射線学科の開設認可 |
- ・コロナ前のにぎやかさイベント特集 2
- 【特集】海外研修レポート2023 Summer 4~16

NEWS

診療放射線学科、2024年4月開設へ準備進む

医療学部診療放射線学科の開設が9月11日付で文部科学大臣から認可されました。2024年4月、入学定員60名でスタートします。現在、看護学部(看護学科)、医療学部(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視能訓練学科)がありますが、来春から2学部6学科、総定員1280名の総合医療系大学として、より一層、地域に貢献してまいります。11月には総合型選抜と学校推薦型選抜、2024年1月には一般選抜前期が行われ、着々と準備が進んでいます。

NEWS

カラフルフェス出店、福岡山王病院とタイアップ

10月14日(土)、15日(日)に福岡市・百道浜地区で開催された「RKBカラフルフェス2023」に、福岡国際医療福祉大学と福岡山王病院、専門学校福岡医療経営学院が共同で参加し、2日間で550人の市民がブースを訪れました。初日は、福岡山王病院の栄養士、看護師、保健師による「腸年齢チェック」や「妊婦体験」「認知症チェック」「血圧測定」。2日目は、本学の理学療法学科による「肩こり検査」や言語聴覚学科による「耳年齢検査」などを行いました。

また、来春、福岡市中央区長浜に開校予定の専門学校福岡医療経営学院のPRも実施しました。国際医療福祉大学・高邦会グループとして、地域のためになる「医」「教育」「健康」情報をお届けできたと考えています。



運動会を開催！

6月3日、1年生を対象とした運動会が開催されました。本格的な開催はコロナ禍前の2019年以来です。綱引き、障害物競争、ぞうきん掛けレースなどで学生・教職員一同大いに盛り上がりました。一番の盛り上がりは応援合戦！制服に着替えてダンスをしたり、寸劇をしたり、趣向を凝らしたパフォーマンスを披露し大いに盛り上がりました。今回の運動会を機に、いろいろな人と仲良くなれたのではないかと思います。



体育館満席、病院や福祉施設が就職説明会

県内外の医療機関や社会福祉法人の採用担当者が本学を訪れ、4年生に仕事の内容などを説明する「就職説明会」を9月12日と15日の2日間、開催しました。昨春、初めて卒業生を出した各学科にとって、医療機関や社会福祉法人に参加を呼び掛ける就職説明会は2回目。前はコロナの影響で、採用側も来校を手控え小規模の会合でしたが、今回は大幅に増加し12日は午前、午後の二部制に分け、会場も体育館に移しました。約50のブースが並んだ会場は満席状態。「就職に強い大学」を印象づけました。



新風祭も学外開放

10月28日、「Connect～人と繋げる 未来へ繋げる～」というテーマのもと、第3回新風祭が開催され、保護者の皆さんや近隣の住民など学外にも開放されました。

各学科の「体験イベント」のコーナーでは血圧や肌の角質水分量、骨密度の測定など、各学科とも趣向を凝らしました。模擬店は、就労支援B型の施設による出店や学生出店で大いに賑わいました。体育館のステージでは、琴、ダンス、軽音の部活動、サークル活動発表や理学療法学科有志のダンス、カラオケやビンゴ大会。最後にはとろサーモン、フースーヤによる「お笑いゲストライブ」も行われました。

また実行委員会（宮坂歩乃果委員長）は模擬店の売上の一部、1万4100円を11月29日、西日本新聞民生事業団の「歳末助け合いまごころ募金」に寄付し12月1日付の新聞で紹介されました。全7店共同して寄付したのは初めてです。



歳末助け合い
まごころ募金
西日本新聞民生事業団 敬称略

【30日】12万9894円
宗像公教会（青木一乗会長、宗像市）28日にJR赤間、東郷、福岡の3駅で実施した街頭募金から10万円、匿名女性（志免町）1万4100円、福岡国際医療福祉大新風祭実行委員会（宮坂歩乃果実行委員長、早良区）10月28日に実施した本学「新風祭」の模擬店の収益から3千円（匿名女性・中央区、匿名女

看護学科3年生、実習前の病院見学ツアー

看護学科は3年次におよそ半年間の病院実習を行います。実習先の病棟内で長期間、看護業務に就くのは初めての経験で緊張の日々です。これを少しでも緩和しようと本学では、実習前に「病院見学ツアー」を実施しています。

今年度は9月5日～7日に本学グループの「高木病院」（大川市）と「柳川リハビリテーション病院」（柳川市）を訪問。ドクターカーやシミュレーションセンターを見学しました。学生からは「ドクターカーで出勤するのは医師1人と看護師1人のため、互いに信頼できる関係でないといけない。しっかりと経験、知識をもちドクターと同等の立場で治療を行わなければならない」「シミュレーションルームでは実際に器械を使って胸骨圧迫を行った。器械が自分の胸骨圧迫の判定をしてくれるため、私の技術では不十分なことが分かった」などの感想が寄せられました。



日本心血管インターベンション学会に7000人

本学教授で福岡山王病院長の横井宏佳先生が大会長を務める「第31回日本心血管インターベンション治療学会」が8月4日～6日、福岡PayPayドームとヒルトン福岡シーホークで開催され、過去最高の7000名が参加しました。福岡山王病院をはじめ全国9病院からカテーテル治療の30症例がライブ配信され、ドームのオーロラビジョンなどに映し出されました。高木邦格・国際医療福祉大学理事長の特別講演もありました。

学会には本学と国際医療福祉大学（大川キャンパス）の学生ら177人がボランティアで運営に携わり、学内生活では得られない「刺激」を受けました。大学側に協力依頼があり「バックヤードなど普段、入れない場所に行ける。学生にとっても貴重な経験」として、希望者を募りました。当日は、総合受付や発表会場での進行補助、照明などを担当。参加した学生からは「キャンパスだけの生活では、聞くことのできない医療の話を聞くことができた」「将来、医療人として働いていく上で、勉強になった」との感想が寄せられました。

理学療法学科が自主企画の運動会

理学療法学科の学生が自主企画した運動会が11月25日、学内体育館であり、1～3年生およそ110人が参加、男女混合の15チームに分かれてバレーボールを楽しみました。

3年の辻井結菜さん、古川虎太郎さんが代表発起人となって企画。なるべく多くのチームと対戦するよう、1試合は最長7分間で打ち切り得点の多いチームが勝つ方式にしました。15チームは2つのコートに、7または8チームの2グループに分かれて総当たりのリーグ戦を行い、1位チーム同士が優勝決定戦を、2位チーム同士が3位決定戦を行いました。体育館は終日、珍プレー、好プレーが続出し歓声に包まれていました。



海外研修レポート

2023
Summer

医療プロフェッショナルの養成をめざして、本学が必修科目と位置付ける「海外研修」は、2019年4月の開学後、新型コロナウイルスのため実施できていませんでしたが2023年8月、ようやく実現しました。

期間は約2週間。9月の第2陣も含めて、参加者は看護学部の3年生96名、医療学部4学科の2年生125名の計221名です。韓国、台湾、中国、オーストラリア、英国など14カ国地域にある計18施設（大学15、機関3）のコースに分かれました。各コースには国際医療福祉大学の学生も加わり全体では758名でした。

学生は帰国後、30の班に分かれて研修の様子をパネルにまとめました。本館と1号館に掲示し、来館者や後輩学生に研修の様子を伝えています。今回は、このパネルから「気になる言葉」をピックアップし、国別レポートにまとめました。

イギリス

親切で居心地が良い街

日程

2023年8月5日～15日 7名

研修内容

- ・University of East Anglia(UEA)では、英国でのPTの役割、アセスメント方法を学んだ。松葉づえは英国では使用しない。
- ・救命救急シミュレーションを見学。ストレッチャーにも乗った。
- ・手術室見学では気管挿管訓練を体験。ナースステーション、礼拝堂なども見学した。宗教やビーガンなど患者の意をくみ取り組みも進んでいる。
- ・助産師による講義では日英の分娩室の違いがはっきりと見うけられた。日本は室内が明るい、英国はキャンドルライトやプロジェクターで星空のような空間だった。
- ・高齢者は喉が渇いた、という感覚が鈍くなり、脱水症状を起こしやすい。水分補給について学び、SLT(日本ではST)から声帯の動きの動画をみせてもらった。

文化体験

- ・Norwich大聖堂やノリッジ城、レッドライオンを訪ねた。
- ・老人ホームを訪問し、入所者と折り紙でツルやパクンチョを作り、一緒にビートルズの「Let it be」や坂本九の「上を向いて歩こう」を歌い、とても感動的な時間を過ごした。

総括

- ・英国と日本の医療に大きな相違点はないが、それぞれの医療職が高い専門性と幅広い役割を担っていると感じた。滞在したNorwichは人々がとても穏やかで親切で居心地が良い街だった。

思いやりや気配りも学んだ

日程

◎大邱（テグニハ大学）

2023年8月2日～11日 4名

◎仁済（インジェ大学）

2023年8月2日～11日 14名

◎建陽（コニャン大学）

2023年8月2日～11日 43名

研修内容

- ・大邱韓医大学校の臨床病理学科の講義は、実験が多く静脈血採血やABO検査、顕微鏡を用いた細菌観察をするためのカラーリング、解剖した臓器の標本づくりを、臨床病理学科の学生から教えてもらった。リハビリテーションの講義では、今後の治療が運動療法や物理療法だけでなく、メタバースを利用した仮想空間での治療、筋肉量や脳の活性度をITでデータ化させるなどの可能性を学んだ。
- ・仁済大学白病院は5つの病院に4000床をもつ韓国の私立病院の代表格。海雲白病院はその一つで、小児の部屋にADL室、PT、OTのリハビリテーション室があり日本の病院と似ていた。部屋の中にはプールもあり水中リハビリが行われていた。浮力があるので、身体が動かしやすい。
- ・コニャン大学（KYU）のPT学科では、動物にもリハビリを行っていることを知った。PTがより活躍できると感じた。OT学科ではインターネットを駆使して時間を効率化し、空いた時間を患者さんの能力向上につなげていた。OTとPTは兼任している。放射線学科では人体模型を使って体内臓器を観察した。臨床検査分野では法医学も勉強していた。

文化体験

- ・テグニハ大学の学生との交流では、一緒に韓国料理（チヂミやトッポッキ）と日本料理（お好み焼きや唐揚げ）を作って交流を深めた。漢方医薬博物館を訪問し、韓国での漢方の歴史や実際にどんな漢方薬があるかを学んだ。
- ・チマチョゴリを着て旧正月の礼儀作法を習った。
- ・インジェ大学の学生と一緒に、福笑いやけん玉をして交流を深めた。
- ・韓国の紙を使ったウチワづくりを体験したり、ビビンバづくりに挑戦したりした。

総括

- ・日本と韓国の文化の違い、医療技術の進歩の違いを目で見て肌で感じた。コニャン大学では、看護、理学療法、作業療法、眼鏡光学、放射線、臨床検査の6学科を体験できた。病院見学もあり、実際の医療の在り方、病院の雰囲気、患者さんの様子などを観察できた。
- ・学生との交流は、思いやりや気配りなど気持ちの面でも学ぶことが多い研修だった。

オーストラリア

違いを受け止めて一緒に…

日程

◎グリフィス

2023年8月2日～15日 10名

◎ゴールドコースト

2023年8月2日～15日 11名

◎ケアンズ

2023年8月2日～15日 8名

研修内容

- ・英語の授業は5日程度(午前中が英語、午後は医療関係というパターン)。各人の英語のレベルも勘案しながら、プレゼンテーションなども交えた授業が行われた。
- ・医療スタッフが勤務を引き継ぐときは、患者さんのベッドサイドで行っている。患者さん中心の、より正確で安全性の高い医療をめざしているからだ。
- ・患者さんの移乗、移送は看護師に負担がかからぬよう器械で行う。さまざまな種類の器械があり実際に体験させてもらった。
- ・産婦人科では夫婦で入院期間を過ごせるベッドが用意され、水中出産が可能な病室もあった。看護学科には、実習用の人形の年齢が小児タイプから高齢者まで8種類あった。そのほか、点滴が打てる人形もあり、実際に打たせてもらった。

文化体験

- ・老人ホームを訪問して、折り紙、けん玉などをお年寄りと一緒に楽しんだ。
- ・ホストファミリーに観光地へ連れていってもらい、たくさんの思い出ができた。
- ・「ケアンズ盆踊り大会」では、現地の人も浴衣姿だった。

総括

- ・今回の豪州研修では多様性、環境意識、労働文化、異文化コミュニケーションを学んだ。
- ・先住民についての授業があった。男性も助産師になれる。差別的な目をもたず、互いの文化を受け入れながら生活していた。
- ・(考え方や価値観が)自分と違う場合、その違いを受け止めて一緒に生活していく(共存する)ためにどうしようか、と考えることが大切だと知った。
- ・国際的医療人として活動したい、という私たちの夢の実現に、大いに役立つ経験だった。



フィリピン

日本では得られぬ体験

日程

2023年9月5日～15日 2名

研修内容

- ・フィリピン大学マニラ校は、医療分野ではトップの大学として知られ、政府、医療機関、医療グループとつながりを持ち、国内の医療研究機関のリーダーとして最先端の教育、研究を行い、フィリピン総合病院という大学病院も運営している。
- ・キャンパスツアーではPT・OT・NS・PSなどを見学。日本と同じような実習室もあったが、薬をつくる研究室やミニ博物館もあった。
- ・PT・OT・ST・NS・PSの先生たちのレクチャーや病院見学もあった。
- ・障がい児施設を見学した。子どもたちからプレゼントをもらった。かわいらしかった。
- ・小児リハビリ施設も見学したが、低所得者でも治療を受けられるよう運営されていた。

文化体験

- ・現地の学生との交流会では折り紙、けん玉、椅子取りゲームを楽しんだ。

総括

- ・フィリピンの歴史や日本の医療との違いを学んだ。環境・衛生面では日本の方が整っているというのが実感だ。フィリピン大学の学生との交流は、言葉の違いに困ることもあったが、翻訳装置を駆使してコミュニケーションをとった。日本では得られぬ体験をし、視野を広げた。これからの学修に生かしたい。



マレーシア

プールの床が動いた

日程

2023年8月5日～15日 10名

研修内容

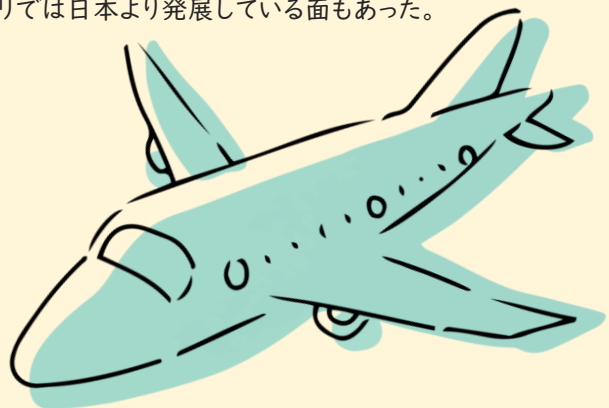
- ・Management&Science University (MSU) の大学病院は、高水準の医療レベルを保ち最新の医療機器を取り入れた治療を行っていた。法医学やMRIの部屋も見学した。
- ・メンタルヘルスの講義も受けた。精神疾患をもつ成人の60%が精神疾患保険に加入していなかった。
- ・チュラスリハビリテーションセンターでは、下肢装着する装具を製作するところを見学。シャーラム病院では各学科に分かれて見学したが、入院期間は、お昼からだど10時間、朝からだど7時間、と異様に短く驚いた。
- ・CPR演習では、グループに分かれて、先生がそれぞれについて、AEDや心肺蘇生（胸骨圧迫30回、人工呼吸2回）の模擬訓練をした。人工呼吸では、人形の口との間に隙間ができてなかなか肺に空気を送ることができなかったが、練習を続けうまくなってきた。総合リハビリテーション病院は380人の受け入れが可能。筑波大学も関与した技術を用いたランニングマシンがあった。なんと、寝たきりの患者さんが歩く練習をしており驚いた。

文化体験

- ・ブルーモスクに行きお祈りの方法を教えてもらった。女性は肌や髪を見せてはいけないためヒジャブをまとった。バドゥ洞窟はヒन्दウー教の聖地。マレーシアはマレー系、中国系、インド系などの多民族国家だ。
- ・セントラルマーケットでは、定番のお土産ナマコ石鹼が安く売られていた。夜はツインタワーとサロマ橋で日没を待ち、ライトアップされた夜景を見た。

総括

- ・すべてが貴重な体験だった。大学ではマレーシアの医学やメンタルヘルスについて英語で講義を受けた。
- ・ICU見学では、シーツ交換が朝昼夕の1日3回だった。リハビリテーションセンターでは、足が不自由な人がバーチャルで車の運転をしていた。室内プールは患者さんの障がいのレベルによって床が動き、水中歩行訓練を行っていた。日本とマレーシアの医療福祉事情は異なるが、リハビリでは日本より発展している面もあった。



インドネシア

国境を越えた出会い

日程

2023年9月5日～15日 2名

研修内容

- ・プスケスマス保健所では「バリ島医学特有の課題への取り組み」と「伝統的な世界の代替医療」の講義を受けた。
- ・ヤツパ財団の児童養護移設を訪問した。
- ・ウダヤナ大学では、International Medical Summer School in 2023のテーマのもと、現地の大学生が独自企画したプロジェクトに参加した。学生プレゼンテーションも開催された。

文化体験

- ・ガルーダ・ウインヌ・クンチャ観光や、寺院ツアー、アラス・ハルム観光を楽しんだ。
- ・エコツーリズムではマングローブの木を植え、Puja Mandaraツアーでは5つの礼拝所を見学した。

総括

- ・独自企画プロジェクトでは、国境を越えてたくさんの人と出会い、会話し、インドネシアの医療の現状をはじめ、多くのことを学んだ。異文化を実感した、充実の研修だった。

台湾

異文化への理解と興味

日程

2023年8月5日～15日 14名

研修内容

- ・中国医薬大学新竹分医院（看護学部が見学）は、中国医薬大学の付属病院。台湾で初めて東洋医学と西洋医学を融合した漢方薬と西洋医学の総合医療サービスを行っている。看護臨床技術演習室も見学した（マジックミラーで、教員が室外から学生を観察できる!）。
- ・怡仁総合病院（看護学部が見学）には、内科、小児科、産婦人科、外科、神経科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、放射線腫瘍科、歯科などの診療科と24時間対応の救命救急室があった。
- ・行天宮医療基金会恩主公病院（医療学部が見学）は仏教の地域教学病院で、地域唯一の医療センター。救急だけでなく介護予防のための健康増進運動など高齢社会に応じた介護サービスや在宅医療を行っている。

文化体験

- ・ジブリの映画「千と千尋の神隠し」のモデルといわれる街「九份」を訪問。地下鉄で西門町(日本の原宿のような街)にも行った。
- ・現地のボランティアの方々と「じゃんけん列車」や「福笑い」のレクリエーションを楽しんだ。

総括

- ・台湾では、勤務の厳しさから看護師の離職が多く看護師不足になっているようだ。一方で、AIなど最新技術を取り入れた医療を提供しており、日本の電子機器も導入されていることを知った。現地の学生との交流や文化体験も含めて、異文化への理解と興味を深めることができた11日間だった。

シンガポール

世界共通言語は 英語でなく「笑顔」

日程

◎SIT 2023年8月4日～14日 6名

◎NYP 2023年9月4日～14日 6名

研修内容

- ・Nanyang Polytechnic (NYP) は、3年制の国立専門学校で健康科学学科など7学科をもつ。3日間にわたり講義を受けた。「シンガポールにおける健康増進」では、健康の維持は経済促進につながっているという、国の基本的な考え方を知った。おもちゃ店の経営者が教壇に立ち、実際に介護に使われている道具を教えてもらった。そのほか、シンガポールでは日本と同様に少子高齢化が進み、がん・循環器疾患・糖尿病が多くなっていることも知った。
- ・Ng Teng Fong Hospitalでは最先端のリハビリを体験した。空気圧を調整して足のリハビリを行う器具、ゲームのキャラクターと自らの足の動きが連動する、などだ。Tan Tock Seng病院では、リハビリの器具について学んだ。リビングラボという施設が内部にあり、ハンディがある人を助ける器具を開発していた。リハビリを行う際は、1部屋に1人、PTとOTが配置され日常生活の動作のトレーニングを行うため、キッチンやシャワーも設置されていた。

文化体験

- ・セントーサ島への観光では、水族館やケーブルカーを楽しみ、マーライオン公園、チャイナタウンも訪問した。シンガポール工科大学(SIT)の学生との交流会では、最初は言葉の壁もありコミュニケーションに苦しんだが、紙相撲大会で一気に盛り上がった。世界の共通言語は、英語ではなく「笑顔」だと思った。

総括

- ・現地の大学、病院、ホスピスなどを訪れ、シンガポールの医療福祉事情を、直接学ぶことができた。自由時間に、班のみなどと様々な場所を訪れ、カヤックやバンジージャンプも体験し、一生忘れられない充実した時間を過ごした。

ベトナム

「どんな患者がきても助ける」 看護師長は言った

日程

◎ホーチミン

2023年8月6日～16日 21名

◎ハノイ

2023年8月5日～15日 18名

研修内容

- ・ホーチミンではチョーライ病院で計7日間、研修した。学生は看護学科と理学や作業のリハビリ系学科に分かれた。看護の学生は、耳鼻咽喉科、呼吸器内科の病棟を見学したり、胸腔穿刺や採血、手術などに立ち会ったりした。リハビリ系の学生は、リハビリ室やICUを見学。急性期患者、脳卒中患者、救急患者、乳がん患者など、患者さんに応じたリハビリのやり方を学んだ。
- ・ハノイでは、ハノイ医科大学を4日間にわたって訪問しEmergency Room、ICU Room、Bach Mai Hospitalの外来部門やリハビリテーション部門で研修した。小さな病院への国民の信頼は低く、大きな病院に行く人が多い。ハノイ医科大学病院では一つのベッドを3・4人で使用する様子も見られた。日本のODA支援を受けており、診療科ごとに外来用の病棟があった。外来数は年間70万人で、新型コロナ前はその倍だった。来院した患者さんが、どの診療科を受診するのか、どんな検査を受けさせるかなどの判断、心電図、血液などの各種検査の対応もすべて看護師が行っていた。

文化体験

- ・孔子が祀られている文廊、ベトナム民族学博物館、ベトナム戦争にゆかりの統一会堂、戦勝証跡博物館を訪問した。現地の学生とゲームや、祭りで使う提灯づくりを楽しんだ。

総括

- ・学生のうちに、違う国の病院に研修に行ける機会などない。何を見ても新鮮だった。
- ・日本とベトナムの医療の違いを知ることができた。患者さんが多いので病院の受付開始は真夜中の午前0時、診療開始は午前5時だったが、ベッドが足りず、廊下で療養し、人手が足りず家族が支援していた。それでもチョーライ病院の看護師長は「どんな患者さんがやってきても助ける」と話した。国の医療水準は違っても、医療職としての信念は同じ。私たちも、この信念を大切に、これから医療職の道をまっすぐ歩いていこうと思った。



カンボジア

やさしさ、あたたかさ

日程

2023年8月5日～15日 11名

研修内容

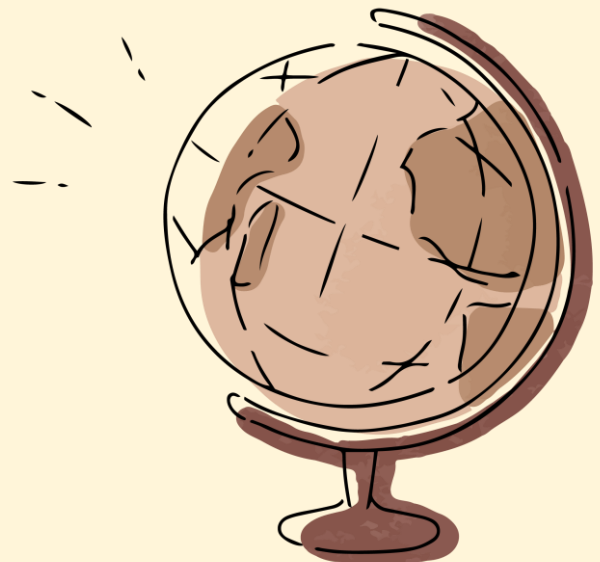
- ・研修初日はUniversity of Health Science(UHS)での歓迎式。現地の学生と交流を深めた。
- ・国立病院見学では、患者さんの所得の多さによって払う金額が違うことを知った。重症者が多いため、手術などが終わったら約3日で家に帰されると聞いた。
- ・母子保健センターを見学。日本と同じように病院での出産が95%を占める。早期出産の半分は死産になってしまうようだ。所得によっては無償受診もできるためか、院外まで受診の列が続いていた。
- ・カルメット病院はベッド数1500床で、カンボジアで最も大きな病院。1階にはスターバックスもある。きれいな病院だ。
- ・シムリアップ州立病院はベッド数370、オペ室が8。日本の支援を受けて施設の拡大をめざしている。シムリアップ小児病院は、読み書きができない子どものために、院内のあちこちにイラストの説明があった。栄養失調を防ぐために院内に野菜畑もある。

文化体験

- ・アンコールワットは東南アジアを代表する世界遺産。暑かった。
- ・トゥールスレン博物館では、カンボジアで1970年代に起きた大虐殺を知ることができる。
- ・イオンモールを訪れた。日本と大きな差はなかった。とくにフードコートは日本語ばかりだった。

総括

- ・他の国々から支援を受けて、医療費の無償を行う一方、入院患者さんの身の回りのケアは患者家族が行うため看護師は介入しておらず、看護師の役割の違いが分かった。現地の人はみな優しく、カンボジアという国の温かさを知った。



タイ

医療に対する高い志をもつ方々との出会い

日程

2023年8月2日～15日 14名

研修内容

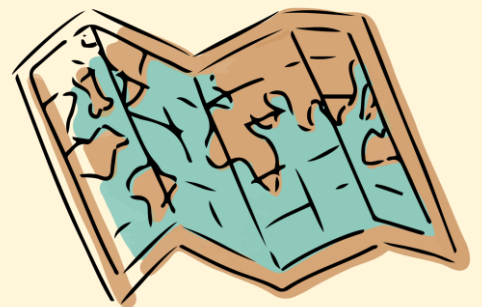
- ・Christian University of Thailand (CUT) で、タイの医療の現状やメディカルツアリズムなどの講義はすべて英語。CUTの学生によるキャンパスツアーも英語。海外研修までに語学力上げることが大事だ。
- ・Ratchaphipha Hospitalは、地域に密着した高齢者医療を得意とする病院。LINEを活用した無料診療も行っている。訪問医療を通じて介護負担の追跡調査や、死別後のグリーフケアなど家族への支援も行っている。ICUも見学したが患者さんと看護師の人数が1対1の組み立てだった。
- ・Dontum Hospitalはタイの伝統を重んじる地域密着型の病院。ハーブ療法やマッサージ、鍼治療が行われていた。
- ・Bankok International Hospitalは、タイで初めて設立された私立病院で、現在、タイ最大の病院グループ。日本を含む32カ国語に対応する。
- ・Vanhee International Hospitalは、皮膚再生や美容外科などジェンダー医療を提供し、国内外から患者さんが訪れ日本人患者は6番目に多い(性転換目的が多い)。看護師の制服はミニスカートで可愛らしかった。

文化体験

- ・象の背中で左右に揺れながらアユタヤを見学した。終了後、象からチップを求められ、可愛さに負けてつつい払ってしまった。
- ・タイ古式マッサージを体験。気持ち良すぎて寝てしまうほど・・・。

総括

- ・5つの病院を見学し、それぞれに長年重んじている理念があることを学んだ。ハーブ療法やマッサージ療法など古代から伝わる自然療法が、現代医療と混在して行われていた。
- ・日本とは異なる医療制度や教育プログラムを知るとともに、タイの人々の優しさにも触れた。言葉や国籍は違えども、医療に対する高い志をもつ方々との出会いは、私たちに医療従事者としての新たな価値観をもたらした。普段と異なる環境での生活に戸惑いもあったが、楽しく刺激的な経験だった。



中国

コミュニケーションを とろうとする姿勢

日程

2023年8月5日～15日 2名

研修内容

- ・北京博愛病院は主にリハビリを行う総合病院。救急部、リハビリ臨床、総合臨床、リハビリ治療、医療技術などの科がある。同センターでは、運動障害や神経障害、脳卒中などの患者さんに対して、積極的なリハビリを行っていた。運動療法、言語療法、音楽療法など多様なプログラムを提供していた。また神経リハビリ科、泌尿器科、整形外科、脊椎損傷リハビリ科などの病棟も見学した。
- ・北京按摩病院では鍼灸体験。按摩をしている人の3分の1が、目が不自由だった。中国障がい者スポーツセンター、中国点字図書館も見学した。

文化体験

- ・北京動物園、頤和園、天安門、天壇公園などを見学した。

総括

・中国では、鍼や按摩などの東洋医学が保険適用の対象だった。中国リハビリセンターでは、看護師より医師の人数が多いようだ。インターネットの普及率が高く、診療費の支払いや退院後の経過指導にも活用されていた。何より、言語が通じなくてもコミュニケーションをとろうとする姿勢が大切であることを学んだ10日間だった。

ラオス

学びも楽しみも想像以上

日程

2023年8月5日～15日 12名

研修内容

- ・パスツール研究所を見学。アニサキスやマラリアなどの研究を行っている。
- ・Mahosot病院はラオスで最も大きな病院。感染症に強く、日本にも情報を提供している。Setthathilat病院はラオス保健省の管轄にあり高齢者の内科系疾患が多い。
- ・Friendship病院は骨や脳の手術が中心。Child病院はテング熱の患者が半数を占め、そのほかに白血病、発達障害、小児手術、アレルギー治療を行っている。
- ・Santhoug District病院は医師が3人しか駐在していない。ヘルスセンターは、9つの村の患者さんを見ている。

文化体験

・高さ45mの黄金の塔、タートルアンの周囲には仏像や絵画が並んでいた。パトゥーサイは、首都ビエンチャンのランドマーク的な建物で「勝利の門」を意味する。シサケ寺院にも多くの仏像が並んでいたが、数えられておらず、何体あるか分からないそうだ。

総括

・発展途上国の医療現場の現状を学ぶことができた。現地環境にも意外とスムーズに適応できた。スクールも体験した。ラオスの学生とも仲良くなることができた。想像以上に学びも楽しみもある研修だった。

モンゴル

未知の国が身近になった

日程

2023年9月1日～12日 13名

研修内容

- ・日本大使館、JICA、モンゴル医科大学、国立第三中央病院、モンゴル障がい児開発センターなどを訪問。
- ・SoNでは、大学内や看護学生の実習授業を見学。学生シンポジウムでは、学科別にプレゼンテーションを行った。モンゴル・日本教育病院はJICAによってつくられ、2次医療、3次医療の提供が可能になった。ベッド数は116床だが、将来は350に増える。
- ・国立の高齢者介護施設も訪問した。首都ウランバートルからバスで2時間半。入所の条件は、家族や親せきがいなこと。2人部屋でトレーニングルームもあった。

文化体験

- ・テルレジ国立公園ツアーに参加した。チンギスハーン騎馬像の博物館、アリヤバル寺院などを訪問し、乗馬体験も楽しんだ。
- ・自由行動では、デパートやショッピングモールを回った。

総括

・モンゴルの医療機関や福祉施設を数多く訪問し、モンゴルの医療福祉の実情を学んだ。また独自の文化伝統に触れて、未知の国が身近になった。



海外研修

Photo Gallery

